

高性能住宅の POINT!

家の快適さは
建材と技術で
決まる!

“窓・壁・屋根・基礎”や
“太陽光発電”

それぞれの性能や技術が、
快適で安心な高性能住宅を支えています

取材
協力

セイズ株式会社
営業プランナー 三井 正文 さん



葛飾区を拠点に、高性能住宅の普及に取り組むセイズ株式会社の営業プランナー・三井さん。建築業界で15年以上の経験から、高性能住宅の取材を通じて、そのポイントについて教えていただきました。

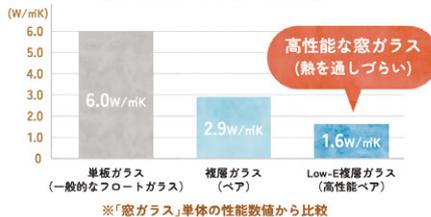
POINT.01

窓の断熱



樹脂複合サッシ

熱の“50%以上”は窓から逃げる
—熱を伝えにくい窓で快適に—



住宅の中で最も熱の出入りが大きいのが「窓」。Low-E複層ガラスなどの高性能窓ガラスや、樹脂などを使用した高性能サッシを取り入れることで、窓からの熱の出入りを大幅に抑えることができ室内を快適に保ちます。

POINT.02

壁・屋根の断熱



壁 100mm

屋根 120mm

断熱材ですき間なく包み込む
—足元と天井付近の暖かさを比較—

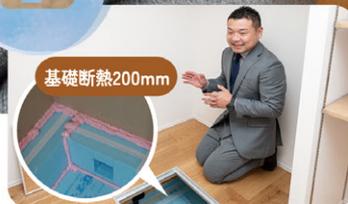


※資料提供：セイズ株式会社

断熱材で住まい全体を包み込むように断熱することで、足元と天井付近でほとんど温度差がなくなり、空間全体が均一な室温に保たれます。熱源がある空間では、居場所による寒暖差をほとんど感じません。

POINT.03

基礎の断熱



基礎断熱200mm

冬の底冷えを防ぐ
—床下も室内と変わらぬ断熱環境に—



この物件では、基礎の立ち上がり内側に厚さ200mm、底面にも基礎の立ち上がりから1mまでの範囲に、厚さ100mmの断熱材を施工。基礎をしっかりと断熱することで、冷気の侵入を防ぎ底冷えを抑えることができます。

+災害の備え、家計の助けにも

心強い太陽光発電システム

一年間光熱費の比較



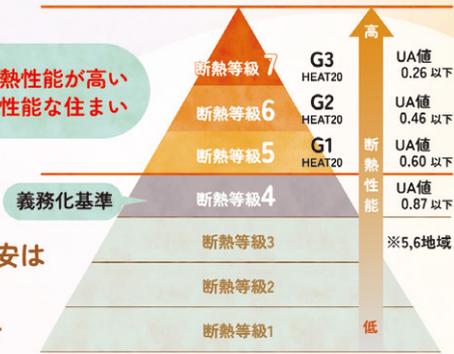
※1 一般住宅：平成28年度省エネ基準レベル。UA値0.87、ガス給湯器利用
※2 参照：「第三者機関発行BELS省エネ性能ラベル」より算出
※3 今回の住まい：UA値0.35 電気・ガス併用
※ その他条件：4人家族 床面積/91.5㎡ 太陽光発電システム/2.64kW

※資料提供：セイズ株式会社

高性能住宅に太陽光発電システムを組み合わせることで、災害時の電力自給はもちろん、年間の光熱費を大きく抑えることも可能です。今回の住まいのケースで試算した場合、現行の断熱基準の住宅と比べると年間約10.8万円の光熱費抑制効果が期待できます。

まとめ

断熱性能が高い
高性能な住まい



高性能住宅の目安は
断熱等級5~7
UA値のご確認を

断熱性能の指標は、住まい全体として「UA値(外皮平均熱貫流率)」で表現されます。数値が小さいほど熱が逃げにくい住環境であることを意味。ちなみに今回取材した住まいは、UA値0.35(断熱等級6・HEAT20 G2)。家選びは、こうした性能値もぜひ確認してみてください。

